宝性坊が滝

昔北楢岡村に宝性坊という山伏ありて、此の木直の滝に入りて無動尊の呪文を唱え、いら高おしもみ、水清うしてひねもす苦行して効験を得たり、さりければ宝性坊が滝といへり、この宝性坊が事は北楢岡の梭尾螺塚の処に委曲にしるしたり。

これの大意を示すと昔北楢岡に伊藤五右ェ門という家があった。この家の南側の林の中に法螺貝塚とよばれる塚があり、この塚は宝性坊という山伏を祀ったものという。宝性坊はある年刈和野辺に住む修験者に峰入修行に誘われ旅立った。ところが刈和野の山伏は悪僧である夜旅の博打うちを語らいて終夜博打うちをうったがさんざんに負けあり金残らずとられ、その上衣までとりあげられてしまった。翌朝宿代をやっとまかない出して宿を出たが、裸なため目立って困り、そのまま旅を続けることもできず山路に入り往来のないところを見はからって先ゆく宝性坊を引き伏せ首をしめて殺し懐中ものをうばい死体は谷に蹴落して、そしらぬ顔で旅を続け金のある間宿から宿をまわり歩いて日を重ね、やや日数を経て家に帰ってきた、途中宝性坊の家の門に来て「宝性坊は旅の途中で死亡した。これは宝性坊の形見だ」とほら貝を窓より投げこんでさっさと帰ってしまった。あまりのことに宝性坊の妻は驚き、まことに死んだものならもっと詳しく話してくれればよいのに、旅に誘っておきながら窓からほら貝を投げつけて帰るとはと、その貝をもってお上に訴え出たため刈和野の山伏はとらえられ、とうとう口落ち殺人とわかり罪にされた。その後伊藤五右ェ門が形見の貝を入れた塚を作り、多くの山伏を招いて葬式供養した。坊屋敷、貝塚、法螺貝塚などとも言っている。